

# 青果物の流通費用に関する調査研究 I

松 田 延 一

## A Survey of Research Studies concerning the Cost of Distribution and Sale of vegetables and fruits. I

by

Nobukazu MATSUDA

### 1. は し が き

一般に商品の流通費用に関する世人の関心は、その商品の高価格のときには、とくに消費者の側から、低価格の場合には、生産者の側から問題にせられる傾向がある。近年わが国における野菜や魚、肉などの価格上昇により、それらの流通費用が問題にせられ、さらには流通組織そのものについても批判せられるようになってきた。筆者は、青果などいわゆる生鮮食料品の流通問題研究の1つとして、名古屋市場に出廻る青果物の流通費用の実態を明らかにするために、若干の調査研究を試みつつあるが、本稿はその研究活動において、今日までに明らかになし得たところを報告しようとするものである。

なお筆者は昭和6年(10~11月)と7年(7~8月)に京都市の中央卸売市場に出廻る青果物(昭和6年には果物と野菜を6種類ずつ、7年にはそれぞれ8種類ずつ)の流通費用を調査したことがあるが(文献1~3)、その当時に比べると、今日は著しく事情が変わっている。そこで本稿においては、現在の流通費用そのものを明らかにするとともに、昭和初年代の今日との約40年間における諸事情の変化のあとを併わせ考察することにしたいと思う。

### 2. 調査対象および調査方法

#### A. 調査対象および調査時期

名古屋市中央卸市場の本場(熱田区川並町所在)へ出廻る青果物のうち、調査し易く、しかも大衆の日常生活において密着したものを調査対象とした。この目的から夏期に出廻る野菜のうちから、なす、きゅうり、たまねぎ、ばれいしょの4種、果物はもも、すいか、とまと(すいかと、とまとは本来野菜ではあるが、家庭では果物のように取り扱われているから、ここではこれらを果物に入れることにした。)なお秋野菜では、だいこん、はくさい、きゃべつ、にんじん、さつまいもの5種、果物ではあまがき(富有)、りんご、みかん、なし、ぶどうの5種を調査対象とした。秋期の調査結果は目下取りまとめの段階にあるため、本稿では夏の調査結果を第1報として報告することとする。

調査の時期は、昭和45年7月下旬から8月上旬に至る期間である。

次に流通費用は生産地から市場までの諸費用と、市場から消費者の手に入るまでの諸費用との二段階に分けて考えることができる。そこで次のような調査方法をとることにした。

#### B. 卸売価格を中心とする調査

市場へ出荷せられ、卸売取引が開始せられる直前、売場に展示せられている品物につき、そ

の出荷者（荷主）を調査し、その荷主に対して、市場までの諸費用、卸売価格などを問合わせるアンケート調査によって資料を集めた。その調査項目は次の如くである。

1. 品名, 2. 荷造り単体量, 3. 市場までの輸送費（発駅までの運賃, 鉄道運賃, 船運賃, トラック輸送の場合はトラック運賃）, 4. 荷造り包装費（荷造り包装材料費と選別, 包装荷造りのための労働費など）, 5. 検査料, 6. 組合の手数料, 7. 卸売価格, 8. 卸売人手数料, 9. 出荷者手取金, 10. 出荷, 販売などについての意見などである。これによって、個人出荷別に出荷販売費用, 卸売価格, 生産者取得の検討資料を得ようとしたのである。

### C. 小売価格を中心とする調査

次に卸売市場から消費者の手に入るまでの流通費用の調査は、1つ1つ品目を追跡して調査する方法と、小売価格を調査し、それを基礎に中間経費を推算する方法とがある。前者は望ましい方法であるが、調査技術上の制約や調査費用を多く必要とする。そこでわれわれの場合は後の方法によることにした。

この場合、小売価格は名古屋市内の小売店の店頭に立って、正札によって調査することにした。小売価格は日々変動するものもあるが、卸売価格に比べるとその変動のひん度は少ないから調査期間に2回巡回して調べることにした。調査小売店数を性格別にみると次の如くである（第1表参照）。

第1表 調査小売店の性格

性 格	店 数	地 域
ス ー パ ー	6	南区, 瑞穂区, 守山区
デ パ ー ト	5	中村区, 中区
公 設 小 売 市 場	3	中区, 瑞穂区, 中村区
私 設 小 売 市 場	5	南区, 瑞穂区, 守山区
個 人 八 百 屋	2	瑞穂区
計	22	

青果物はその流通過程において、目減り、腐敗、損耗、目方の掛け込みなどがあるから、一定の荷造単体量のものが、そのまま小売店の売り上げにならない。このような流通過程における損耗部分（価値減少部分）を、曾って筆者は、流通過程における廃棄部分と見なし、その比率を廃棄率と名付けたが、ここでもこれを適用する。そして実際の廃棄率は気候その他の点を考え、前回の調査に準じ、次のような率と推定し、これを計算の基礎におくことにした（第2表参照）。

第2表 流通過程における廃棄率（7月）

品 名	廃 棄 率	品 名	廃 棄 率
き ゆ う り	9.8%	と ま と	17.9%
な す	12.1	す い か	13.6
じ ゃ が い も	14.2	も も	18.7
た ま ね ぎ	19.9		

備考 拙著、青果の小売価格に関する調査研究による。

さて以上の如くにして得た、小売価格と、単位荷造量、廃棄率とから、荷造り単位量当たりの小売店売上額を計算し、小売商取得率算出の基礎資料とした。

なお中央卸売市場で卸売りせられたものは、仲買人の店頭で運ばれて、ここで小売商人と相対取引によって、小売商人の手に入る場合と、小売商自身が、直接卸売人（青果会社）の行なりせりに参加して買い求める場合とがあるが、ここでは一応、前者のルートによる場合を想定する。そして仲買人の手数料は推定によった。

また卸売価格も小売価格も、ともに日々変動するから、われわれは、ある期間の平均価格を求め、その価格を中心に、流通費用を検討した。この目的のために、小売価格を中心とする流通費用の計算の基礎とした卸売価格は調査期間の平均価格をとることにした。小売価格も調査期間中の各小売店の平均価格を採用した。

### 3. 調査結果の概要

出荷者に対するアンケートの発送数、その回答数を示せば第3表の如くである。

第3表 出荷者に対するアンケートの発信、回答状況（件数）

品名	発信数	回答数	品名	発信数	回答数
なす	13	5	とまと	9	3
きゅうり	5	4	すいか	21	7
たまねぎ	10	3	もも	4	4
ばれいしょ	7	6	合計	69	32

以上の如き結果で、有効回答率は40.6%に止まった。

#### A) 卸売価格を中心とする考察

さて出荷者（生産者）から市場までの諸費用および生産者取得額の1例として、なすの場合を示せば次の如くである（第4表参照）。

一般に市場遠隔地のものは、市場近接地のものに比べ、運賃、荷造費などを多く要するから、その市場競争力は相対的に弱いはずである。そして名古屋中央卸売市場のように、県内の出荷物に対して卸売人の手数料は、やさいについては8%、県外からのものは8.5%というように格差をつけていることなどを併せ考えると、他の条件にして等しい限り、市場近接地が有利に立つことはたしかである。しかし、現実には、品質や出荷量の差があるために、必ずしも上述の傾向を明白に看取することができない。第4表はこのことを物語っている。

そこで品質の差が市場価格に大きく影響するという見地から、調査対象とした青果物につき、産地別に1kg当りの卸売価格、市場までの諸費用、生産者取得額をみると、第5表の如くである（第5表参照）。

これによって、(1)同じ種類の青果物でも、その産地によって、著しく、1kg当りの価格の差があること、(2)流通費用は市場遠隔地が当然大きい、しかし、(3)概ねその価格の良さによって、(2)の不利益をカバーし得ていること、(4)出荷態勢は、概して市場遠隔地のものが共同出荷によるものが多く、市場近接地のものは個人出荷によるものが多いことがうかがわれる。

次に各品目別に、生産地から卸売までの段階における諸費用の構成比を算出すると第6表の如くである（第6表参照）。

これによると、卸売価格に対する生産者取得額の割合は大凡70%程度であるが、すいかが目立って高率なのは、バラ積で、個人出荷したものがあること、又かりに包装したとしても簡単な包装荷造りであるために、この費用の節約分が、相対的に生産者取得額の比率を多からしめていることによるものと考えられる。

B. 小売価格を中心とする考察

次に青果物の全流通過程における流通費用、生産者取得などを計算すれば第7表の如くである。第6表は調査対象の各1kg当りの卸売価格と計算し、一荷造り単位量当りの諸価格を算出したものである(第7表参照)。

第4表 なすの産地別出荷費用

A:実数 B:構成比

単位荷造量	京都府乙訓郡長岡町		京都府亀岡市		山梨県塩山市		海部郡甚目寺町		稲沢市		平均 (構成比)
	8kgダン		8kgダン		10kgダン		4kgダン		4kgダン		
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
	円	%	円	%	円	%	円	%	円	%	%
1. 運賃											
発駅まで	10	1.3									
鉄道	40	5.4									
トラック	—	—	50	11.1	75	16.7	5	2.9	5	2.9	
小計	50	6.7	50	11.1	75	16.7	5	2.9	5	2.9	8.1
2. 荷造包装費											
材料費	55	7.3	50	11.1	40	8.9	25	14.7	27	15.9	
包装料	5	0.7	3	0.7	15	3.3			5	2.9	
小計	60	8.0	53	11.8	55	12.2	25	14.7	32	18.8	13.1
3. 検査料	—	—									
4. 組合手数料	—	—	6	1.3							0.3
5. その他の経費	—	—							1	0.6	0.1
6. 以上計	110	14.7	109	24.2	130	28.9	30	17.6	38	22.3	21.6
7. 卸売価格	750	100.0	450	100.0	450	100.0	170	100.0	170	100.0	100.0
8. 卸売人手数料	63.8	8.5	38	8.5	38	8.5	13.6	8.0	13.6	8.0	8.3
9. 卸売までの流通費用 (6+8)	173.8	23.2	147	32.7	168	37.4	43.6	25.6	51.6	30.3	29.9
10. 生産者取得 (7-9)	402.4	76.8	156.0	67.3	114.0	62.6	126.4	74.4	118.4	69.7	70.1
11. 出荷態勢	共	同	共	同	共	同	共	同	共	同	

備考 1. 単位荷造量欄ダンとあるはダンボール箱入りである。

2. 出荷態勢の共同とあるは共同出荷である。

第5表 1kg当りの卸売価格，流通費用，生産者手取金額（産地別，種類別）

種 類	産 地	卸売価格	流通費用	生産者手取得	荷造原単位量	販売態勢
な す	京 都, 乙訓郡長岡	93.75円	21.72円	72.03	8kgダン	共 同
	〃 亀 岡	56.20	18.38	37.88	〃	〃
	山 梨, 塩 山	28.20	16.80	28.20	10kgダン	〃
	海 部, 甚目寺	42.50	10.90	31.15	4kgダン	〃
	稲沢市	42.50	12.90	29.60	〃	〃
きゅうり	緑, 鳴 海	70.00	10.60	59.60	10kgダン	共 同
	海 部, 佐 屋	50.82	12.19	38.64	8kgダン	〃
	幡 豆, 吉 良	50.00	15.18	34.82	10kgダン	〃
	中 島, 祖父江	50.00	17.13	32.88	8kgダン	〃
	丹 羽, 岩 倉	57.50	24.98	32.65	4kgダン	〃
たまねぎ	兵 庫, 三 原, 緑	50.00	17.00	33.00	20kg木箱	共 同
	〃 〃 南淡	50.00	11.35	38.65	20kgダン	個 人
	知 多, 大 府	20.00	3.85	16.15	20kgネット	共 同
	緑, 大 高	19.00	6.67	12.33	〃	〃
	昭 和, 天 白	14.00	4.97	9.03	〃	個 人
ばれいしょ	知 多, 大 府 1	53.33	9.67	43.66	15kgダン	共 同
	〃 〃 2	40.00	8.80	31.20	〃	〃
	〃 〃 3	26.67	4.90	21.77	〃	個 人
	〃 〃 4	31.33	14.17	17.16	〃	〃
	昭 和, 天 白	26.67	5.33	21.34	〃	〃
	〃 野 並	20.27	6.95	13.32	〃	〃
	緑, 大 高	33.33	8.00	25.33	〃	〃
と ま と	額 田, 幸 田	48.75	15.03	33.72	4kgダン	共 同
	三重, 桑名, 多度	87.50	26.70	60.80	〃	〃
す い か	静岡, 磐田, 浅羽	325.00	57.88	267.12	15kg袋4個入	個 人
	豊 橋, 向草間	325.00	58.50	266.50	〃	共 同
	西加茂, 三 好	100.00	22.70	77.30	1車 332個積	個 人
	刈 谷, 東 境 1	80.00	25.20	53.80	15kg 4個入	〃
	〃 〃 2	161.50	20.86	196.80	1車 330個積	〃
	豊 田, 広 川 1	201.61	22.19	179.42	〃	〃
	〃 〃 2	100.00	22.70	77.30	15kg 4個入	〃
も も	長野, 上高井, 小布施	100.00	41.00	59.00	5kg木箱	共 同
	山 梨, 塩 山	46.67	12.40	34.27	15kgダン	〃
	〃 東八代, 八代	140.00	38.65	101.35	5kgダン	〃
	春 日 井 市	50.00	20.30	29.50	5kg木箱	〃
	一 宮, 細 田	120.00	19.60	100.40	〃	〃

- 備考 1. 産地欄は府県名なきは県内の郡市区町村を示す、  
 2. 荷造り原単位量におけるダンはダンポール入りを示す。  
 3. ももの一宮市の分は一宮市場への出荷である。参考までに掲げた。  
 4. 本表における流通費用とは卸売段階までのものをさす。  
 5. 卸売価格は実際の取引価格を示す。

第6表 卸売価格の構成比(%)

項目	野菜					果実			
	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	以上平均	とまと	すいか	もも	以上平均
運賃	8.1	4.2	7.1	5.0	6.1	3.6	8.2	5.4	6.7
荷造包装費	13.1	15.2	13.4	12.7	13.7	15.7	3.3	16.4	11.8
検査料	—	—	0.1	—	0.0	—	—	0.5	0.2
組合手数料	0.3	1.6	0.2	0.3	0.6	3.2	0.6	0.9	1.6
その他	0.1	0.4	—	—	0.1	—	—	0.4	0.1
合計	21.6	21.4	21.1	18.0	20.5	22.5	12.1	23.6	19.4
卸売価格	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
卸売人手数料	8.3	8.0	8.2	8.0	8.1	8.3	8.0	7.0	7.8
流通費用計 (卸売段階までの)	29.9	29.4	29.3	26.0	28.6	30.8	20.1	30.6	27.2
生産者取得	70.1	70.6	70.7	74.0	71.4	69.2	79.9	69.4	72.8

備考 1. 卸売価格は調査期間の平均卸売価格をとった。

第7表 青果物流通費用の諸指標

	単位	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	すいか	もも
1. 1kg当り卸売価格	円	46.0	55.8	31.4	29.8	65.0	99.8	140.0
2. 1kg当り小売価格	円	94.8	153.1	66.5	62.3	136.0	159.2	287.6
3. 荷造単位量	kg	4	10	20	15	4	1個 3.75	5
4. 同上卸売価格(3×1)	円	184	558	628	477	260	370.5	700
5. 卸売人手数料	円	15.2	44.6	52.0	35.8	21.6	29.6	49.0
6. 出荷費用	円	55.0	164.1	184.0	116.2	80.8	74.5	214.2
7. 仲買人手数料	円	18.4	55.8	62.8	44.7	26.0	25.9	49.0
8. 小売商仕入価格(4+7)	円	202.4	613.8	690.8	491.7	286.0	396.4	749
9. 廃棄率	%	12.1	9.8	19.9	14.2	17.9	13.6	18.7
10. 小売商売上数量 (3×(1-9))	kg	3.5	9.0	16.2	12.9	3.3	3.24	4.1
11. 小売上売上高(10×2)	円	321.8	1,377.9	1,065.3	803.7	449.5	515.8	1,179.2
12. 小売商取得(11-8)	円	119.4	764.1	364.5	313.0	163.5	119.4	430.2
13. 流通費用計(5+6+7+12)	円	208.0	1,028.6	672.8	508.7	291.9	243.9	742.2
14. 生産者取得(4-5-6)	円	113.8	349.3	392.5	295.0	157.6	270.9	437.0

備考 1. 出荷費用は各産地からの実際の出荷費用の卸売価格に対する割合を求め、これを本表の荷造り単位量当りの卸売価格に乗じて求めたものである。

2. 卸売人手数料、仲買人手数料も出荷費用と同様の算出方法によった。

次に本調査の究極目標の1つである、青果物の流通費用の小売価格に対する割合を計算すると、第8表の如くである(第8表参照)。

第8表 青果物流通費用の諸指標(2)

—小売価格に対する割合— (%)

項 目	な す	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	すいか	も も
1. 1 荷造単位量 kg	4	10	20	15	4	1 個3.75kg	5
2. 卸 売 価 格	57.2	40.4	59.0	55.6	57.8	71.8	48.8
3. 出 荷 費 用	17.1	11.9	17.3	14.5	18.0	14.4	18.2
4. 卸売人マージン	4.7	3.2	4.8	4.4	4.8	5.7	4.2
5. 仲買人マージン	5.7	4.0	5.9	5.6	5.8	5.0	4.2
6. 小売商マージン	37.1	55.6	35.1	38.8	36.4	23.2	36.4
7. 流通費用合計 (3+4+5+6)	64.6	74.7	63.1	63.3	65.0	48.3	63.0
8. 生産者取得 (2-(3+4))	35.4	25.3	36.9	36.7	35.0	51.7	37.0
9. 小 売 価 格	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

備考 1. 本表は前表により計算したものである。

2. 仲買人のマージンは卸売価格に対し、やさい 10%、果物 8%と推定して計算した。

これによると、(1)流通費用率（小売価格(100)－生産者取得率）は63－4%程度、従って生産者取得率（小売価格に対する比率）は36－7%となっている。(2)しかしこの表においてきゅうりの小売商取得率が著しく大きいことと、すいかの生産者取得率が顕著に大きいことを見逃してはならない。調査時には異常なほど野菜が値上りしていたが、とくにきゅうりのそれは顕著であった。そのことを反映してか、きゅうりの小売商取得率は非常に高くなっている。これは例外的なものであるというべきである。(3)同様にすいかも高値であったが、その生産取得率が大きいのは、個人販売により、農家が自らのトラックで市場へ搬入し、出荷費用を節約し得たからであり、これも例外的であると見なすべきであろう。

以上のように考え、例外的な二者を除いて野菜と果物の流通費用、中間商人のマージン、生産者取得などを計算すると次の如くである（第9表参照）。

第9表 青果物の流通費用、マージン

(小売価格=100)

	野 菜	果 物
1. 出 荷 費 用	15.2%	16.9%
2. 卸売人マージン	4.3	4.8
3. 仲買人マージン	5.3	5.0
4. 小売商マージン	41.7	32.0
5. マージン計 (2+3+4)	51.3	41.8
6. 流 通 費 用 計	66.5	58.7
7. 生 産 者 取 得	33.5	41.3
8. 小 売 価 格	100.0	100.0

備考 本表は前表より計算した。

#### 4. 考 察

A. 以上述べたところから観察し得たことは、45年春以来の高値が、夏期に入っても依然としてつづき、夏期の代表的な、且つ大衆的需要のある青果物が、例年に比べ、いわば異常に高値であった。そのために、本調査によって得た流通費用率、とくに小売商のマージンの代表性について、若干留保的に考えなければならないかとも思われる。

そこで上述のとくに異常的な小売価格を示したきゅうりと、特殊な出荷事情にあったすいかを除いて、試算した流通費用、小売商のマージン、生産者取得の数値を（第9表）、若干の他の調査事例と対照して、考察の緒口をつけておくこととしよう。

B. 曾って筆者が戦前に試みた青果物の流通費調査を示せば第10表の如くである。

第10表 他 の 調 査 事 例 (1) (%)

調 査 時 期	野 菜		果 物	
	A	B	A	B
調 査 品 目 数	6	6	6	8
1. 出 荷 費 用	20.10	15.24	19.03	21.33
2. 卸売人マージン	5.83	5.19	5.90	5.18
3. 仲買人マージン	5.83	5.19	6.00	5.32
4. 小売商マージン	35.82	42.94	34.95	40.10
5. マージン計	47.48	53.32	46.85	50.60
6. 流 通 費 用 計	67.58	68.56	65.88	71.93
7. 生 産 者 取 得	32.42	31.44	34.12	28.07
8. 小 売 価 格	100.00	100.00	100.00	100.00

備考 1. 本表は拙著、青果小売価格に関する調査研究 p.24 の表を本稿の様式に加工集計したものである。

2. 調査時期Aは昭和6年10.11月、Bは昭和7年7.8月である。

C. この調査結果と今回の名古屋市における調査結果を直ちに比較することには問題がある。何故ならこの2つの調査対象青果物の数が異なっており、産地数も異れば、調査期間やそのデータの数が異なっているからである。さらにこの期間に約40年の時間が経過していることを見逃してはならない。ここではむしろこうした時間的経過の間に起った、経済の進歩のあとをたずる資料として、役立つと考えられる。

今その角度から、この2つの調査の結果を比較すると次ぎのことがいえよう。しかしこれは現在の時点での暫定的見解である。調査の完了をまって、はっきりした結論に到達し得られると思うから、ここでは、現在の資料に関する限りで、所見を述べよう。先づ第1に、気をつけることは、前回の調査結果に比べると、今回のものは、概して生産者取得の小売価格に対する比率が増大していること、従って流通費用率が低下していることである。第2に、その原因は出荷費用率の低下によるものである。このことに関して、ここで一般的な結論を下すことは早計に失するかとも考えられる。何故なら、今回の調査では、比較的市場近接地からの出荷物が多かったからである。もしこの点を無視するならば、近年、選別、荷造り包装が、以前に比べると、著しく、合理化せられ、資材費や労働費（本箱からダンボールへ、人力選果から機械選果



へと変わったこと)の節約が行なわれているし、輸送手段と、近年トラック輸送の発達により輸送費の節約が行なわれている。また卸売の手数料も以前は卸売価格の約10% (1部歩戻しがあるために10%以下となっていた)であったものが、今日は上述のように低下している。それらのことが、影響して流通費用とくに、荷送り包装費、輸送費の低下をみたのである。これらの事情を省察し、仮りに一般的な結論を下すとするならば、前回の調査に比べると、今回の調査は、たしかに、技術の進歩、広くいって経済の進歩のあとを思わせるものがあるといえる。

実際、前回の調査時に比べると、今回の調査において感じたことは、(1)荷姿が著しく変化したこと、すなわち以前果物は、木箱、荒縄掛けのものが殆んどであったものが、今日は、ダンボール箱のものが支配的となり、野菜類でもダンボール、或いはネット(たまねぎ)などに入ったものが多くなり、外見が美しくなっている。(2)次ぎに出荷態勢をみると、今回は前回に比べると、共同出荷のものが多くなっている。これは戦後の農政、とくに昭和30年代の新農村建設事業やその後の農業構造改善事業において、主産地の育成、共同選果、共同出荷が奨励せられたために、その結果現象として、荷口の大量化、共同出荷の増加乃至は出荷費用の節約がなされ得たものと考えられる。

(3)また、トラック輸送の発達によって、市場遠隔地からの出荷において、トラック輸送が増加し、鉄道輸送は相対的に減少しているのに気付いた。このことは例えば東京市場においても、鉄道輸送によるものを、昭和38年と43年とを比べると、野菜は19%から15%に減少しているがトラック輸送は81%から85%に増加しているし、大阪市場においても野菜は38年には鉄道51%、船舶12%、自動車37%であったものが43年にはそれぞれ23%、3%、74%となり、トラック輸送の増加が顕著となっている。同様に果実にあつては、鉄道は47%から23%へ、船舶20%から4%へと減少し、トラックは33%から74%へと増加している。(4)このように極く、最近の数年間においてさえこのような変化をみたのであるから40年前のことは思い半ばに過ぎるものがある。

D. なお昭和41年農林省の調査によると、卸売価格に対する、生産者取得、市場で卸売するまでの出荷費用の割合は第11表の如くである(第11表参照)。

第11表 卸売価格に対する生産者手取および出荷販売費用  
(卸売価格=100)

品 目	生産者取得	出荷販売費用
た ま ね ぎ	68.1%	31.9%
だ い こ ん	63.9	36.1
は く さ い	53.3	46.7
平 均	61.7	38.3
と ま と	59.2	40.8
り ん ご	54.5	45.5
み か ん	79.2	20.8
平 均	64.3	45.7

- 備考 1. 農林省昭和41年調査。  
2. 農政調査委員会編、農業経済経営事典 839. 843頁により計算した。

この表の結果を、われわれの調査結果と比べると、流通費用率が、われわれの場合よりも高く、従って生産者取得率が低くなっているか注目せられる。これはわれわれの調査は市場近接地からの出荷が比較的多かったことによるものと考えられる。

E. 最後に、すでに見たように、青果物の流通費用は種類により、産地により、出荷態勢により、また荷造り包装方法によっても異なるがさらに流通費用率や生産者取得率は卸売価格、小売価格、廃棄率等によっても影響を受けることになる、この点については更に秋野菜についての調査結果と併せ考察することとする。

また流通費用節約のための技術問題についても、上述したところで大凡の方向を見出し得たと思う。これについての考察も後日にゆずることにしたいと思う。

稿を終るにあたって、本調査のために便宜を与えて下さった名古屋市中央卸売市場業務課調査係長中村恒好氏およびアンケートの回答をよせられた各産地の出荷関係者に対して厚く謝辞を述べておきたい。また調査に多大の協力をされたゼミの学生、安藤名津子・井野みつる、高橋なを子、山崎勝代、古沢伸枝の諸君に対しても深く謝意を表しておく。

(1970. 11. 15)

#### 参 考 文 献

1. 拙稿 : 1935 (昭 10), 青果小売価格の分析的研究, 京大農業経済論集, 第 1 卷, 17~75頁。
2. 拙稿 : 1935, 商品青果の廃棄率に関する調査研究, 同上書, 77~99頁。
3. 拙著 : 1938, 青果小売価格に関する調査研究 (これには「青果小売価格の分析的研究」の外, 「青果小売価格の各種小売店別比較」) を収録。
4. 拙稿 : 1953, 商品青果の廃棄率に関する調査研究, 前掲書, 28頁。
5. 石川弘 : 1970, 卸売市場の現況と問題点, 農業構造問題研究, No. 49, 55頁。
6. 農政調査委員会編 : 1970, 農業経済経営事典, 839頁, 843頁